

鏑木清方と山口蓬春

—吉田五十八建築にみる日本画家の画室—

鑑賞ワークシート

鏑木清方(かぶらききよかた)と山口蓬春(やまぐちほうしゅん)は、戦前・戦後にかけて、世代を超えて強い信頼関係で結ばれ、日本画壇を担ってきました。更に、清方と蓬春は、ともに吉田五十八に画室や邸宅の設計を依頼したという共通点があります。

画室は、画家が多くの時間を過ごす創作の場、それゆえに画家の個性が強く反映される場所だともいえます。二人の作品や画室を見比べながら、その創作風景を思い描いてみてはいかがでしょうか。



鏑木清方(1878-1972)
鎌倉・雪ノ下の画室にて 昭和36年(1961)



山口蓬春(1893-1971)
葉山・画室にて 昭和39年(1964)

鎌倉市鏑木清方記念美術館

山口蓬春記念館

鏑木清方は、大正15年(1926)に本郷龍岡町から牛込矢来町に転居しました。昭和7年(1934)に、吉田五十八(当時38歳)に依頼して改築し、「夜蓄亭」(やらいてい)と名付けました。大作を制作するときには使いやすいよう、大きい窓を設けたり、作品を画室から直接戸外に運び出せるよう工夫しました。五十八にとっては、初めて手掛けることとなった日本画家の邸宅・画室設計の仕事。その後、日本画家の邸宅や画室の設計を次々と担ってゆきます。

清方がいたく好んでいた矢来町の邸宅は、戦災で焼失しましたが、昭和29年(1954)鎌倉・雪ノ下に居を構える際、矢来町の画室を再現しました。当館では、昭和29年当時の部材を使って画室を復元しています。

蓬春と五十八は、大正4年(1915)に東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学、ともに大正12年(1923)に卒業した同期。五十八は、戦前蓬春の邸宅(東京・世田谷)を設計。戦争で手放してしまった邸宅と画室のかわりに戦後、蓬春が葉山に既存の木造2階建て家屋(現・山口蓬春記念館)を購入後には、画室(昭和28年[1953])をはじめ、内玄関・茶の間(昭和32年[1957])などの増改築を手掛けています。また、蓬春没後は墓の設計を手掛けるなど二人は、生涯変わらぬ友情で結ばれていたといえるでしょう。



吉田五十八(よしだ・いそや) 明治27年(1894)ー昭和49年(1974)

建築家。東京に生まれ東京で歿。大正4年(1915)東京美術学校図案科入学、大正12年(1923)卒業。大正14-15(1925-26年)に欧米へ遊学を経て、伝統的な数寄屋建築を近代化した独自の作風を確立した。熱海杵屋左衛門別邸(昭和11年[1936]、以後増改築)で名声を得、東京歌舞伎座の改築(昭和26年[1951])、日本芸術院会館(昭和33年[1958])、五島美術館(昭和35年[1960])、大和文華館(昭和35[1960])、在ローマ日本文化会館(昭和37年[1962])などを設計したほか昭和38年(1963)より皇居新宮殿造営顧問も務めた。昭和29年(1954)日本芸術院会員、昭和39年(1964)文化勲章受章。

同じ日本画家の画室ですがどのような印象を受けましたか。じっくりと観察しながらちがいを探してみてください。

観察するところ	鎗木清方の画室	山口蓬春の画室
①天井	船底の形をしているのはなぜでしょう。 【ヒント】美術館は1階平屋建てですが、旧宅は2階建てでした。	日本家屋で部屋を区切る役割をする、あるはずのものはありません。それは何でしょう。
②障子	窓の障子の ^{きん} 棧が少ないのはなぜでしょうか。	五十八建築の特徴の一つです。一般的な障子とどんなところが異なりますか。
③窓	五十八ならではの収納の工夫により、出窓の右側に引き戸があります。 【じっくりご鑑賞ください】	この画室には戸袋(戸が収納される箱状の造作物)がありません。戸、網戸はどこにしまわれているのでしょうか。
④空間	日本家屋の画室で、大きな屏風作品を描く場合、空間をとるためにどういう工夫をするでしょう。また、この画室の広さで、清方はどんな工夫をして描いていたのでしょうか。	床の形状をご覧下さい。変わったところはありませんか。
鎌倉市鎗木清方記念美術館と山口蓬春記念館の画室は設計年代に隔たりがありますが、二つの画室を比べてどのような点が違っているのでしょうか。		
⑤お気づきの点		

【答え】

鎗木清方の画室：①2階に画室があり、天井高を出すため ②外光の明るさを取り込みやすくするため ③見つかりましたか？ ④襖を取り外して仕切りをなくし、屏風を広げることもあります。清方は限られた広さの部屋で、屏風を折りたたんで制作したこともありました。 ⑤この機会にぜひ五十八建築をじっくりご鑑賞ください

山口蓬春の画室：①欄間や吊束(つりづか/鴨居の垂れ下がりを防ぐために鴨居の中程に鴨居を吊り上げている束)。単純化を目指す近代数奇屋では天井までの大障子(欄間障子)や吹抜けの欄間などが用いられました。

②荒組障子(棧を荒く組んだ障子)。障子紙の寸法に囚われない自由な大きさの組子(棧)の形式を取り入れました。

③戸の全てが敷居のレールによって壁の中に引き込まれ、外からは見えない構造になっています。押し戸、引き込み式と呼ばれています。これにより大きな窓の設置が可能になり、画室の採光面で大いに役立つことになりました。

④段差(レベル差)があります。座敷生活と椅子式生活を一室の中で調和させるために考案されました。座敷に座った人と椅子に座った人の目線があうように床に段差が設けられています。